

令和6年度 茨城大学教育学部附属特別支援学校 学校評価(Ⅰ) 校務分掌 自己評価表

評価基準 A:目標を十分達成できた。 B:目標をほぼ達成できた。
C:目標はあまり達成できなかった。 D:ほとんど目標が達成できなかった。

学校経営方針		○児童生徒の思いや保護者、教師の願いを大切にする。 ○時代のニーズを踏まえながら公教育の一端を担い、茨城大学教育学部附属特別支援学校として4つの使命(mission)の達成に努めるとともに、安心・安全な教育環境の徹底を図る。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	成果と次年度への課題		
教務部	教務企画	○教育相談、体験入学、入学者選考を状況に応じて改善しながら、実施する。(A-①)	・本校の教育について、適切な説明、効果的な発信方法を工夫し実践する。	A	・教育相談での教育課程更新の丁寧な説明、出願説明の対面とWEB動画の併用、「報告書」を作成する在籍園校へデータ送付することでパソコンにより作成できるようにするなど、改善した。体育館の音響機器更新により、ICT活用した儀式的行事が円滑に実施できた。	
		○儀式的行事(入学式、卒業式等)を円滑に運営する。(A-③)	・内容の見直し、ICT機器活用を進め、学習効果を高める。	B		
	庶務・表簿	○各表簿の内容の精選や電子化を進め、事務作業の効率化を図る。(A-③)	・ICT支援員と連携し、表簿の電子化を進めていくと共に、各表簿の記載内容や様式を見直し、事務作業の簡略化・効率化に努める。	B	・電子化した表簿について、不都合などが無いか適宜意見を集約し、見直す機会を作った。今後も、事務作業の簡略化・効率化となるような電子化を積極的に進めていく必要がある。 ・長期休業中に各部の係が出席簿や健康診断票、指導要録等の点検を行い、随時作成状況の把握をし、適切な管理をすることができた。	
		○各表簿の適切な作成・管理に努める。(A-②)	・夏季休業と年度末休業の2回、各表簿の点検を行い、作成状況の把握及び適切な管理に努める。	A		
	PTA関係	○保護者との連絡調整を適宜行いながら、PTA活動が円滑に進められるようにする。(D-③)	・担当職員が、P運営委員、地区委員長と必要に応じて連絡を取ることで、活動についての相談に応じられるようにする。	B	・マチコミメールを活用し連絡調整を適宜行うことでPTA活動を円滑に運営することができた。 ・地区PTAの活動は、保護者のニーズにより来年度より廃止することを決断し、より円滑なPTA活動が運営できるように、会則の改定も行うことができた。 ・子供たちにとってより良いものを企画運営するために、保護者のニーズを踏まえながら、外部団体との連携も図り、夏祭りから秋祭りへ移行し実施したり、ダンス教室を開催したりすることができた。	
		○保護者と職員が一丸となり、秋祭り等の行事を盛り上げられるようにする。(D-③)	・保護者、職員が共通理解を図りながら計画を進め、役割分担をしながら事業にあたることで、負担を軽減しながら内容を充実させられるようにする。	B		
	教科書・図書	○教科書関係の書類作成を適切に行う。(C-①)	・今年度の教科書使用の実態を把握し、活用を勧める。	B	・教科用図書選定に関して採択希望図書は全て採択することができた。今後、採択している教科用図書について年間で教科書の使用場面を、部ごとに把握しておく必要がある。 ・定期的に寄贈図書を中心に蔵書を増やすことができた。今後、児童生徒の興味・関心に合わせた蔵書を目指し、図書室の管理を行っていきたい。	
		○児童生徒が行きたくなる図書室の環境を整備する。(A-①)	・児童生徒の実態に即した必要な図書を収取するとともに、図書室の環境を整備する。	B		
	地域支援部	教育相談・地域支援	○特別な配慮を要する児童生徒の共通理解を図り、学校全体で支援を行う。(A-①)	・学校全体で情報共有する場を設定したり、必要に応じて校内支援会議を行ったりする。	A	・4月に教員全体で、特別な配慮を要する児童生徒について情報共有を行った。 ・4名の生徒について校内支援会議をもち、学校全体で支援について話し合った。 ・地域の幼児教育施設や福祉施設等の要請に応じて、学校生活の様子を公開した。 ・水戸市の調査員として、要請に応じて幼児児童生徒の検査や保護者面接等を実施した。
			○附属学校園、地域の学校等、関係諸機関に対し、各々のニーズに応じた相談・支援を行い、センター的機能の役割を果たす。(D-①)	・支援要請のあった各機関のニーズを丁寧に把握し、必要に応じて関係機関と連携しながら継続した相談・支援を行う。	A	

情報教育部	視聴覚機器管理 ・HP管理係	○ICTを活用した授業づくりを推進する。(A-③)	・ミニ研修、アプリやiPadの手順表の活用、ICT支援員との連携などに取り組む。	A	A	・毎月1回ミニ研修を実施している。内容については、ICT支援員と連携して資料の作成ができた。また、ICTの授業づくりを推進するためにフィンガーボードやパワーポイントの教材を作成してもらい、サーバーで共有することができた。
		○視聴覚機器の効果的な運用と適切な管理に努める。(D-②)	・学校行事や公開研究会などで役割を分担し、設営、運営に取り組む。	B		・視聴覚機器の使い方や設営方法について共通理解を計り、運動会等の行事で運営することができた。
学生教育部	教育実習 (事前事後、 一日体験を含む)	○実習内容・方法等の見直しや改善を行い、充実した実習となるように努める。(B-①)	・大学の担当者等と連携を図り、実習内容や方法を見直し、必要に応じて改善することで、教育の質を確保する。	A		・実習生が多かったこともあり、2名の実習生で協力して指導案や授業の内容、進め方等を考える方法を取った。一つの教科に集中して取り組むことで、学習指導について考える時間を確保しながら、TTの実践も行うことができた。
		○学校での諸活動の楽しさを感じ、自主的に実習に臨むことができるような体制作りを努める。(B-②)	・各部間で連携を図り、児童生徒との関わりを大切にしたい指導や実習生同士が認め合える場の設定を工夫する。	B	A	・実習生同士が声を掛け合い、支援の方法等について考える機会を設定することで、自主的に児童生徒と関わったり、互いの関わりについて認め合ったりすることができた。 ・個別に配慮を要する学生について事前に大学の教員と情報を共有し、必要に応じて対応を検討しておくことで、学生の特性等に応じた教育実習を実施できた。
	介護等体験	令和6年度は実施なし				
生徒指導部	生徒指導	○教師の専門性や得意分野を生かし、生徒指導を総合的に推進する。(A-①)	・様々な分野の問題に対して生徒指導部のみで対応せず、他の教員の専門性を活用したり、外部専門家の助言を受けたりして、総合的に対応できるようにする。	B	A	・茨城大学の金丸先生に研修会をしていたが、生徒指導に対する専門性を向上させると共に、現在本校で起きている問題に対しても助言をしていただくことができた。 ・大小問わず、生徒指導上の問題に関しては担任及び部主事と連携し、管理職の指示のもと対応することができた。
		○児童生徒の人間関係の不安や生活上での悩みなどを早期発見し、児童生徒が安心できる学校を実現する。(A-①)	・いじめアンケート結果や日々の問題を学校全体で共有し、諸問題に対しては迅速かつ丁寧に対応していく。	A		・昨年度の反省を生かし、いじめアンケートを年3回実施した。この3回だけではなく、生徒指導部会を毎週、いじめ防止対策委員会を月1回行い、情報の共有をできるようにし、迅速かつ丁寧に対応することができた。
	通学指導	○年間を通してスクールバスを安全に運行できる環境をつくる。(A-①)	・教職員やSB関係者、保護者と常に情報共有し、運行上の危険箇所や児童生徒の危険行動には迅速に対応をする。	A	A	・バス内で起きた出来事に関しては、乗務員や担任から情報を受け、席を移動させたり、保護者やデイサービスに手紙を配付したりすることで安全性を確保した。 ・昨年度と同様に乗務員に関しては、生徒指導部員と共に発作対応の緊急シミュレーション訓練を実施した。
		○自力通学生徒が安全に通学できるようにする。(A-①)	・自力通学のシステムをもとに練習を行うとともに、保護者の協力を得ながら常に安全性を保つことができるようにする。	B		・現在、大きな事故などではなく通学はできている。通学中に問題が起きた場合には、部主事や担任と情報を共有しながら、迅速に対応できるようにしていきたい。
キャリア教育部	キャリア教育 (同窓会・親の会)	○児童生徒の実態に即したキャリア・パスポートの活用の在り方やキャリア教育・進路に関する情報の発信方法や内容の工夫に努める。(D-①)	・保護者と連携しながら、キャリア・パスポートを実際に活用したり、キャリア教育や進路に関する情報を積極的に発信したりする。	A	A	・キャリア・パスポートを全学部で実施し、保護者にもコメント、メッセージを通して連携し、学校全体で取り組んでいる。キャリア通信は年6回配信し、ホームページにも掲載している。 ・企業や事業所の新規開拓を行い、生徒の進路選択の幅を広げている。

		○余暇活動の充実や卒業生支援に努める。(D-③)	・二十歳の集いを親の会と連携しながら開催したり、卒業生の追指導を実施したりする。	B		・親の会と連携しながら、余暇活動の機会を設けている。また、今年度は数年ぶりに二十歳の集い後に同窓会も実施し、卒業生支援の充実に努めている。
保健安全部	保健指導	○児童生徒の健康の保持増進を目指す。(A-②)	・基本的生活習慣の定着を軸に、性に関する指導や肥満防止を各部と連携した健康教育を行う。	A	A	・各部と連携し健康教育に取り組んでいる。小学部高ブロックでの性に関する指導では、保護者の参観可とし、家庭との連携を図ることができた。
		○OPTA と協力し、保健に関わる行事を協力して行う。(D-③)	・学校保健安全委員会で、保護者の困り感を解決に導く内容を中心に実施する。	B		・学校保健安全委員会で、保護者からの要望に基づき、食育や性に関する内容を中心に実施した。
	防災・安全	○学校全体で危機管理・防災意識をもてるよう、係を中心に様々な情報を共有して活動する。(D-①)	・職員防犯研修や避難訓練などを通して、互いの情報を交換できる場を設定し、様々な状況に対応できる態度を養う。	A	A	・今年度は、夏季休業中にさすまた研修を実施して、さすまた班の動きを確認してから全職員で不審者の避難訓練を行うことができた。
		○市や大学、PTA と協力しながら備蓄品の確認等の管理や避難所としての役割を確認し、緊急時に地域を守る場所としての認識を高める。(D-③)	・市の生活安全課や大学との連携を図り、備蓄倉庫や緊急時に使用できる校内施設を確認するのと同時に、保護者と共通理解を深めることで不測の事態に備える。	B		・夏季休業中を利用して備蓄品の確認を行った。また、期限が迫っている備蓄米を学校保健安全部会で実際に使用し、保護者の方と試食をしたり、お互いの防災リュックの中身を確認し合ったりして防災に関する情報交換を行うことができた。
教育資源・環境整備	○校内の教育資源の整理と活用を行う。(D-①) ○備蓄品の期限を確認しながら、補充を行う。(D-①)	・備品室の教材・教具の整理を行い、授業に活用できるようにする。 ・各部で教材・教具の整理や情報交換を行い、備品や教材の活用を図る。	A	A	・夏季休業を利用し、各部ごとに不要な教材の破棄や備品室の整理を行い、授業に活用しやすいように整えた。また、各部間で必要に応じ、教材・教具の情報交換を行ったり、貸借を行ったりして活用した。	
給食指導	○児童生徒が食について関心を持ち、食べる姿勢やよく噛むことなどの意識を高める。栄養バランスのよい食事を選ぶことができるようにする。(A-①)	・各部と連携し、児童生徒の実態・課題を把握し、食に関する指導を行う。日々の給食の時間を有効活用し、指導を行う。	B	A	・毎日の給食を生きた教材とし、食育メモを中心とした食育ができた。学校保健安全委員会等の保護者へ直接話すことができる機会も利用し、児童生徒を支える大人にも協力を得ることができた。	
	○保健安全部、担当教員との連絡を密にし、学校全体で安心・安全で衛生的な給食提供を図る。(A-①)	・児童生徒の個々の食べ方を把握し、窒息や誤嚥の危険を減らす指導や助言を行う。 ・教職員間で給食の様子を共有し、衛生的で安全の確保を考えた運用を図る。	A		・今年度から、児童生徒の配食の手伝いも復活したが、年度初めから身支度の整え方等を教職員間で共有し、児童生徒にも指導できたことにより、異物混入もなく、安全な給食提供ができています。	
研究部	学校研究	○音楽・図画工作/美術・体育/保健体育の授業づくりを通して専門性を高めると共に、研究成果を広く発信する。(C-①②)	・各部の部研を計画的に設け、共通理解を図りながら研究を進める。 ・音楽・図工美術・体育について、創意工夫をした授業実践に取り組む。 ・本校の取り組みについて、学校資源を活用し地域の学校へ発信をする。	B	B	・各部月一回以上の部研を通して体育の授業内容・指導法について共通理解をしながら研究を進めた。 ・昨年度の研究の手法(増える指導案)を生かしながら、今年度の体育における研究の手法(目標の設定、記録の取り方、それらを生かした考察)を考案した。 ・昨年度と同様、研究成果をパンフレット形式でまとめる予定(3月)。
研修部	教員研修	○有意義な研修を行うことで、授業力の向上を図る。(C-②)	・各研修(たのまなホーム、職員研修)を企画、実施をする。	A	A	・新任教諭の授業づくりを部で支援する中で、個々の教員の授業力も向上した。研究部、生徒指導部、PTA、教務企画部と協働して教員研修を計画・実施できた。
学習指導	教科	国語	○カルテの内容を参考に、年計作成・授業づくり・実践を各部で行う。(C-①)(A-①)	B		・計画的に年計を作成し、それを基に児童生徒の実態や興味・関心に応じた授業実践を行うことができた。

	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ○カルテを参考に、年計を作成し、児童生徒に合わせた授業実践を行う。(A-①) ○部会や教科部員会で授業実践内容や教材等の確認や情報交換を行い、教員間で共通理解を図る。(A-②、C-①) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各部でカルテを参考に年間計画を作成し、児童生徒の実態に合わせて修正しながら授業実践を行った。 ・部内で授業実践内容や教材等の情報交換を行い、共通理解を図ることができた。 ・部を超えた連携を深めていきたい。
	生活・理科・社会	<ul style="list-style-type: none"> ○授業づくり、実践を各部で進める。(C-①) ○各種資料を各学部で周知し、理解啓発を図る。(C-②) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各部で連携し、ジャガイモを育てたり、収穫体験をしたりできた。 ・特教研に参加し、理・社の教科化について研修した。
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○各分野の内容をバランス良く取り入れた授業づくりを行う。(A-①) ○各部の実態に応じて学習内容を工夫し、各部間で共有する。(C-①) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部ごとに学習内容を工夫して各分野の学習内容を取り入れながら授業展開を行った。 ・大学と連携して、コンサートを開催することで、様々な楽器の音色を聴いたり体験したりし、音楽に親しむことができた。
	図画工作・美術	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い活動を通して、児童生徒の表現意欲を高める。(A-②) ○児童生徒の実態に応じた教材開発に努め、部間で情報共有を図る。(C-①) ○日常的に作品に触れる機会を設定し、豊かな情操を育む。(A-②) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた授業をすることで、それぞれの表現を引き出すことができた。 ・作品を校内や校外で展示することで、児童生徒の作品を地域の人たちに見てもらったり、色々な作品に親しんだりすることができた。
	職業・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○調理実習や校内他学部との交流や大学と連携した職場体験など、生徒が主体的・体験的に学習することができるような学習活動を計画・実施する(A-①)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習に向けての調理実習や、校内他学部との交流や大学と連携した職場体験、ヤギの飼育体験など、主体的・体験的な学習ができた。作業をしてからのタブレットでの作業日誌入力など職業分野も重点的に学習できた。
	保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○各分野をバランスよく取り入れた年間計画を作成し、実施する。(A-①) ○学部ごとの実態に合わせた授業づくりを行う。(C-①) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究部と連携していきながら、学部ごとの実態に合わせた授業づくりを行った。年間計画を意識しながらバランスを考慮して実施し、教材教具においても工夫しながら作成した。また、オンラインや記録用、振り返りとしてICTを活用し、実践した。
	外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ワールドキャラバンを活用したり、大学と連携し留学生との交流機会を設定したりするなど、外国語活動や異文化理解、国際交流に関する学習活動を計画・実施する(A-①)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部・高等部においてワールドキャラバンを実施したり、大学と連携して、留学生とのオンライン交流会を計画したりするなど、外国語や異文化について学ぶ機会を積極的に設けることができた。
教科等を合わせた指導	特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○全校集会を定期的実施し、互いに理解・尊重し合う心を育て、「楽しい学校」を実現する。(A-①) ○委員会や係を充実させ、一人一人が活躍できる場を設定する。(A-①) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に全校集会を実施することで、各学部の交流の機会を設定することができた。 ・各学部で委員会を設定したり、各学級で係活動を設定したりすることで、児童生徒が責任をもって活躍できる場を設定することができた。
	自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ○各部において自立活動の情報交換を行ったり、活動計画を作成したりする(A-①) ○保健指導係と連携の上で、セラピスト等学校訪問事業を担当し、セラピストとの連絡・調整、訪問指導の計画及び実施をする。(A-①) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各部において自立活動の活動計画を作成し、実施することができた。 ・保健安全部と連携を図りながらセラピスト等学校訪問事業を円滑に実施及び運営することができたが、保健安全部にやっていただいた部分が多かったため、役割分担を再検討したい。
	特別の教科道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画に基づき、計画的に学習を進めることで、生徒が主体的に取り組むことができる授業づくりを行う。(A-②) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の実態に合わせた授業作りを行いながら、年間を通して計画的にすすめることができた。

		総合的な学習 (探究)の時間	○各学部の学習内容を検討し、系統性のある 年間指導計画を作成する。(A-①)	B	・各学部の学習内容を検討し、他教科や学校の 教育活動などとの系統性のある計画を 立てることができたが、活動できる時間を 再検討できるとよい。
		日常生活の指導	○日常生活の指導において、各部の実践や課 題について係内での情報交換を行い、指導 に役立てる (A-①)	B	・各部でカルテを参考に年間計画を作成し、 児童生徒の実態に合わせて授業実践を行 った。 ・部を超えた連携を深め、情報交換を行っ ていきたい。
		生活単元学習	○年計を作成し、児童生徒の実態に合わせた 計画的な授業実践を行う。(A-①) ○各部の授業実践や、各部で保有・使用して いる教材について情報交換し、授業づくり する上での参考にする。(A-②)	B	・各部で年計を作成した。授業実践につい ては、計画からの変更などがわかるよう に記録をしている。 ・各部で実施した授業の内容や、どのよう な教材を使用したか、情報交換を行った。
		キャリア	○生徒の実態に応じた指導目標を設定し、指 導内容を工夫する。(A-②) ○製品販売会や外部施設の清掃等を実施し、 地域との交流の場を設ける。(D-①)	B	・各作業グループ、学年ごとに実態に応じ た指導目標を考え作業内容や支援方法を 工夫することができた。 ・近隣の幼児教育施設での窓清掃、茨城大 学でのリサイクル活動や販売を実施し交 流することができた。